

外科専門研修プログラム

いざ宮崎の革新的な外科大講座へ！
日々是好日へ

募集定員
10名

研修期間
3年

責任者からのメッセージ

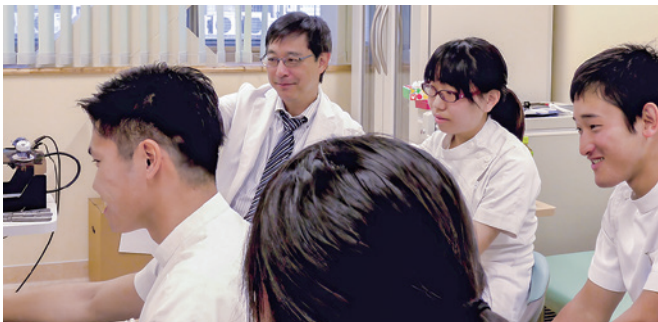


肝胆膵外科学分野
教授 七島 篤志

宮崎大学医学部外科が誇る革新的な大講座制度プログラムに、あなたの若々しい独創性を織り交ぜましょう！ 私たちの外科プログラムは、外科5領域＋形成外科をカバーしつつ、消化器外科を目指す方々には、サブスペシャリティのプログラムが用意されています。我々が所属します日本外科学会の専門医制度では、最終的なサブスペすべの領域を統括し、今後はさらに専門領域へと一元管理が拡大される予定です。

外科医の課題には、第一に地方での専門医不足がありますが、逆に考えれば、都会の大規模病院に比べて個々のチャンスは多いと捉えることができます。第二として、女性外科医の促進と環境整備です。他の領域と同様に、積極的な管理運営が期待されています。第三の課題は働き方改革で、2024年春からは時間外労働の制限や勤務状況による労働の在り方が一般の労働基準に近づきました。過去の過重労働や無益な労働を解消し、外科医の働き方やワークライフバランスに配慮することが求められます。若くて才能あふれる皆さん、技術と知恵、未知の能力を兼ね備えたあなたが、地域から世界を支え、発展させていく一員となりませんか。うまくこなせば**日々是好日(ひびこれこうじつ)**な生活も送れる時代になってきました。外科における急速なデジタル技術、高速回線、AIなどの進歩を活用して、これまでの煩わしい雑務や手順を効率化し、本来求められてきた**外科医の生命を救う真の能力を発揮できる**ようになってきております。グリーン(またはブルー)ジャケットを身につけながら、外科医のみが許される生体に傷を加えることのできる技術からのみ得られる、将来の**謙虚で優れた全人の人格**を形成していくことが大切です。

さあ、技術と知恵と、まだ見ぬ外科医としての未知の能力を兼ね備えた若人のみなさん、我々と一緒に世界を地域から支え、発展させていきましょう！



プログラムの特徴

宮崎大学医学部附属病院を基幹施設とし、宮崎県で有数の研修病院・拠点病院・救急病院として知られる複数の病院が連携施設になっています。病院の規模や地域性が異なり、幅広い経験が可能です。宮崎大学外科専門研修プログラムの関連施設全体での手術総数は約20,000件です。大学病院の手術は軒並み増加しバラエティ豊かに発展しています。分野間の連携が良く、将来何事にも対応できる専門医をめざせます。

連携施設名等

	施設名	統括責任者	専門分野・特徴
基幹施設	宮崎大学医学部附属病院	七島 篤志 教授	消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科
連携施設	県立宮崎病院、県立日南病院、県立延岡病院、宮崎市医師会病院、都城市医師会病院、宮崎県済生会日向病院、串間市民病院、潤和会記念病院、千代田病院、新行橋病院、古賀総合病院、南部病院、宮崎生協病院、黒木病院、さがら病院宮崎、国立病院機構 宮崎東病院、宮崎善仁会病院、国立病院機構 都城医療センター、小林市立病院		

取得可能な専門医資格および技能

1階建て部分の外科専門医を3年で取得し、引き続いて2階、3階建て部分の各サブスペシャリティ専門医に速やかに移行していきます。外科医師に求められる基本的診療能力・態度(コアコンピテンシー)と

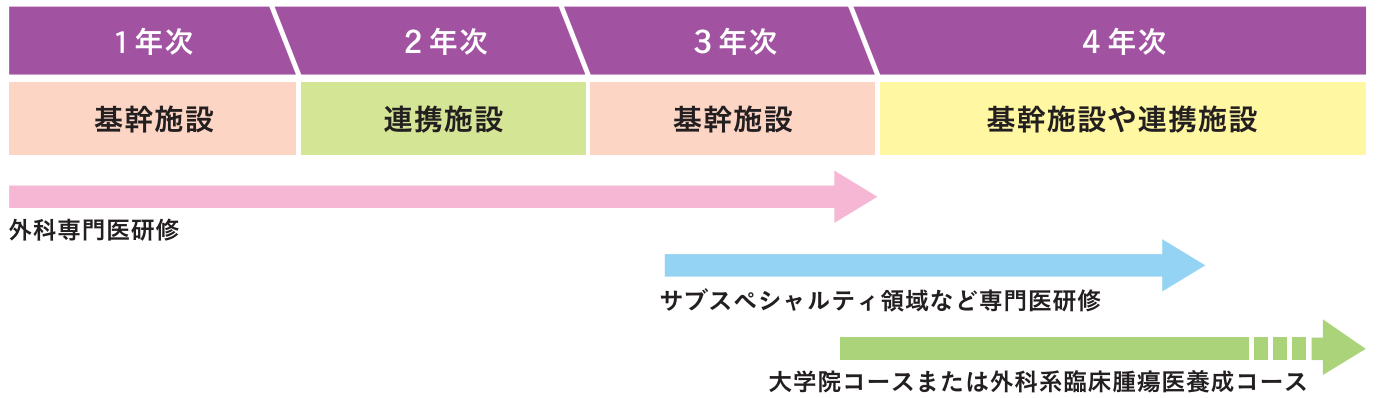
外科専門研修プログラム整備基準にもとづいた外科専門医に求められる知識・技術を習得します。



専門医取得までのタイムスケジュール

外科専門医は初期臨床研修修了後、3年(以上)の専門研修で育成されます。3年間の専門研修期間中、基幹施設または連携施設で最低6カ月以上の研修を行います。下図に宮崎大学外科研修プログラムの1例

を示します。専門研修1年目は基幹施設、2年目は連携施設、3年目は基幹施設や連携施設での研修です。3年目以降の研修は2年次終了時の達成度合いで、研修内容を検討いたします。



サブスペシャリティ領域によっては外科専門研修を修了し、外科専門医資格を習得した年の年度初めに遡ってサブスペシャリティ領域専門研修の開始と認める場合があります。

専門研修期間中に大学院へ進むことも可能です。大学院コースを選択して臨床に従事しながら臨床研究を進めるのであればその期間は専門研修期間として扱われます。

習得目標及び経験症例数

専門研修1年目

主に大学病院で基本的診療能力および外科基本的知識と技能の習得を目標とします。専攻医は定期的開催されるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催のセミナーの参加、e-learningや書籍や論文などの通読、日本外科学会が用意しているビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の習得を図ります。

一般外科/麻酔/救急/病理/消化器/
心・血管/呼吸器/小児/乳腺

経験症例 200例以上
(術者30例以上)

専門研修2年目

基本的診療能力の向上に加えて、主に関連病院で外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。専攻医はさらに学会・研究会への参加などを通して専門知識・技能の習得を図ります。

一般外科/麻酔/救急/病理/消化器/
心・血管/呼吸器/小児/乳腺

経験症例 350例以上/2年
(術者120例以上/2年)

専門研修3年目

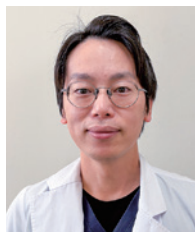
チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮して、外科の実践的知識・技能の習得により様々な外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。カリキュラムを習得したと認められる専攻医には、積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた技能研修へ進みます。

3年目は原則として宮崎大学病院で研修を行い、不足症例に関して各領域をローテートします。



- 各領域で鏡視下手術を積極的に導入しています。
- 2022年よりロボット手術も導入し症例を増やしています。
- 緊急手術や外傷手術も対応しており、救命外科を経験できます。
- 若手の先生がバランスよく効率的に消化器外科に精通できるような丁寧な指導をこころがけています。

先輩からのメッセージ



宗像 駿

みなさん研修お疲れ様です。私は宮崎大学医学部を卒業後、同大学での研修を経て2017年に外科へ入局し、今年で10年目になります。臨床研修終了後の4年間は救命救急医療に従事し、宮崎大学救命セ

ンターで後期研修スタートし、ドクターヘリ診療にも携わってきました。その後、大阪の泉州救命センターで研鑽を積み、救急科専門医を取得しました。外科に入局してから外科専門医、さらに日本Acute Care Surgery学会認定医も取得いたしました。

宮崎大学外科は大講座制を掲げており、消化器外科はもちろん、心臓血管外科・肝胆膵外科・呼吸器外科・乳腺外科・小児外科・形成外科と、幅広い分野の研修が可能です。医局内の距離は近く、先輩方もみなフレンドリーで、相談しやすく学びやすい環境が整っています。消化器外科分野では近年ロボット手術が導入され、若手術者も着実に増えてきています。

私自身は外傷外科・救急外科を専門としています。この領域は全国的にも人数が少なく、宮崎県でも担い手はごくわずかです。そこで日本Acute Care Surgery学会認定医取得のための専門コースを立ち上げ、2025年には1名が入局し、認定医を目指して共に修練を重ねています。ドクターヘリと救命救急センターのリソースを最も有しているのは、県内で宮崎大学だけです。だからこそ私たちは、宮崎県の最後の砦として踏ん張らなければならないと考えています。

熱い志を持った若手の皆さんの加入を、心よりお待ちしております。少しでも興味のある方は、どうぞお気軽にご連絡ください。お待ちしております！

責任者からのメッセージ

『「癌の手術が受けられなくなる」、「救急車を呼んでも診てくれる医師がいない」、そんな未来が現実になりつつあることをご存じでしょうか？』…これは、日本消化器外科学会が主催で行った市民公開講座ポスターの見出しです。我々の使命は、消化器外科医療における深刻な現状の打破です。確かな技術、深い知識、豊富な経験を身に着けた外科医が、お互いの立場や考えを尊重し、理解して、県内の施設間の垣根を超えて、この荒波を乗り越える大きな船を作る必要があります。今は決して大船ではありませんが、宮崎県の確かな消化器外科医療を、一緒に築き上げていきましょう。

領域の紹介

- 消化管(食道・胃・小腸・大腸)の疾患を取り扱う消化管外科と腹部実質臓器(肝・胆道・膵・脾)の疾患を取り扱う肝胆膵外科の2分野の紹介です。
- 外科学分野を横断的に学んで外科専門医を資格を得たのち、消化器外科専門医の資格取得を目標にこの2分野で研鑽をつんでいきます。
- 症例毎に手術適応、手術内容、術後合併症の対応、全身管理について、カンファレンスを重ね、安全性の高い外科診療をめざしています。

教育達成目標

将来の専門分野にかかわらず、卒後5年目の外科専門医取得を目指します。外科専門医に必要な症例数は、専門領域の研修を大学病院で、一般外科の執刀医経験を関連施設で経験することで、十分な修練が可能となります。消化器外科では、外科専門医習得の後に大学病院および関連施設で、消化器外科専門医に必要な症例数と執刀数を経験し、研究・研修実績を積みみます。消化器外科専門医習得後は、大学院進学や留学を含めて、それぞれの先生のキャリアプランに合わせて教育達成目標を設定します。もちろん、出産や子育て等で休まなければいけなくなった場合でも、きちんとキャリア形成ができるように手厚くサポートします。

取得できる専門医及び技能

消化器外科学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医、消化器病学会専門医、肝胆膵外科高度技能専門医、胆道学会指導医、膵臓学会指導医、大腸肛門病学会専門医、食道学会食道外科専門医、気管食道科学会専門医、日本外科感染症学会外科周術期感染管理医認定医、日本腹部救急医学会認定医、日本Acute Care Surgery学会認定医など資格取得に必要な手術や処置の技術

主要症例名と実績数

2025年の手術実績数		
症 例		実績数
【肝胆膵外科 105例】	高難度手術	55
	膵頭十二指腸切除術	22
	肝切除術	34
【上部消化管手術 162例】	食道癌手術	43
	胃癌手術	40
【下部消化管手術 136例】	直腸癌・大腸癌	103 (ロボット手術 46)
	緊急手術・その他	33
【外傷外科手術 15例】		

主要症例名と実績数

宮崎大学医学部附属病院において、外科の年間の退院患者数は約1,200人、外来患者延べ人数は、約12,000人です。手術件数も年間約1,200件ありますので、各分野の症例数は十分に満たします。

院患者数	外来患者延べ人数	手術件数も年間
約1,200人	約12,000人	約1,200件

週間スケジュール（宮崎大学医学部附属病院の例）

時 間	月	火	水	木	金	土
朝	カンファレンス	カンファレンス	抄読会、勉強会	カンファレンス	カンファレンス	
午前	病棟業務・外来					病棟業務
午後	外来・総回診	外 来				
9:00～	手 術					
夕方	放射線診断合同カンファレンス	医局全体ミーティング	内科外科合同カンファレンス 医局全体ミーティング	病理合同カンファレンス	病理合同カンファレンス	

指導医からのメッセージ

消化管・内分泌・小児外科 土持 有貴

初期研修が無事終了し、これからいよいよどの専門に進むか思いを巡らせておられることと思います。一度きりの人生を大きく左右する選択といっても過言ではありませんが、これまでの学生生活や研修医期間の決められたカリキュラムと違って、これからは自分がどんな医師人生を歩んでいきたいか、それぞれの意思で自分の道を築いていくことになります。当外科学教室は大講座制で、各専門分野の先輩たちと一緒に働きながら、自分の関心のある領域をじっくり選ぶことが可能です。また、大学病院と地域の連携病院をローテーションする研修プログラムを通して、幅広くバランスの取れた臨床経験を積んでいくことができます。

困難を乗り越えながら、一生探求し続けることのできる魅力的な分野と思います。興味のある方、大歓迎です！

ココに注目！

現代の患者のニーズでは女性外科医の必要性は年々高まっていて、宮崎大学プログラムはいち早く女性医師が働きやすい環境整備をすすめ、性別にかかわらず就業・キャリア形成ができるよう最善を尽くしています。女性が働きやすい職場こそ男性も働きやすい職場である認識から、共に21世紀の働き方を改革しましょう。



宮崎大学外科学講座のロゴマーク

MIYAZAKI STRONG

お問い合わせ先

T E L : 0985-85-2291
F A X : 0985-85-5563
e-mail : makoto_ikenoue@med.miyazaki-u.ac.jp

担 当 : 池ノ上 実

外科HP

http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/surgery/



責任者からのメッセージ



心臓血管外科
科長 古川 貢之

心臓血管外科と聞くと、ハードで厳しいイメージを持つ方も多いかもしれませんが、確かに簡単な分野ではありませんが、その分、患者さんの人生に深く関わり、大きなやりがいを感じられる仕事です。当科では、一人ひとりの成長に合わせた指導を大切に、安心して学べる環境づくりを心がけています。チームで支え合いながら、少しずつできることを増やしていきましょう。興味のある方は、ぜひ一度見学にいらしてください。

領域の紹介

当科では、成人心臓疾患、先天性心疾患、大動脈疾患、末梢血管・静脈疾患まで幅広く診療しています。MICS手術やTAVI、ステントグラフトなど低侵襲治療にも積極的に取り組む一方、地域の中核施設として難易度の高い手術や小児・成人先天性心疾患にも対応しています。手術は術者の判断や熟練の手技、チームの連携が不可欠であり、AIを活用しつつも代替できない領域です。関連病院との連携で多様な症例を経験でき、国内外への留学機会もあり、着実にスキルアップできる環境です。

週間行事・研修に関する行事

外来は月・水曜日、手術は火・金曜日（どちらも並列）に行っています。週のリズムが比較的一定しているため、日々の業務の見通しを持ちながら働くことができます。毎週水曜日にはハートチームカンファレンスを開催し、多職種で治療方針を検討しています。

取得できる専門医及び技能

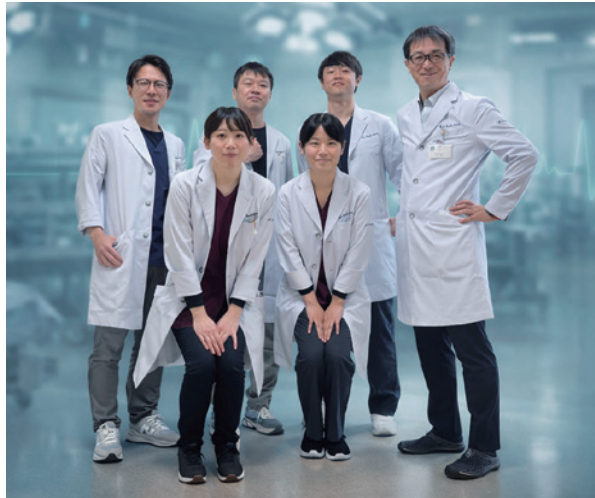
- 外科専門医
- 心臓血管外科専門医
- 脈管専門医
- ステントグラフト実施医および指導医

先輩からのメッセージ



岩崎 あや香（卒後12年目）

段階的に経験を積める環境と周りのサポートに何度も助けられてきました。現在は年間約60例の執刀を任せてもらえるまでになり、一人で抱え込まなくていい安心感の中で成長できています。12年目の今も学びは尽きませんが、患者さんの「ありがとう」やチームでやり遂げた達成感は特別です。少しでも興味(私は血管が大好きです！)があれば、ぜひ一度見に来てください。

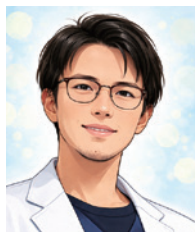


教育達成目標

担当グループの一員として、患者さんの入退院管理や術前プランニング、手術に参加します。多くの症例は標準的な経過をたどるため、日々の診療を通じて基礎的な診療力を着実に身につけることができます。一方で、緊急手術などのイレギュラーな場面も経験し、対応力や診察力を養うとともに、患者さんやご家族への関わり方も学びます。外科の基本手技に加え、循環の理解や術後管理の基礎も習得します。さらに、学会発表や症例報告の作成にも取り組み、臨床力と発信力の両方を高めていきます。

主要症例名と実績数

2025年の手術実施件数	
症 例	実績数
心臓大血管開心術	112件
成人心臓大血管手術	204件
先天性小児手術	20件
腹部大動脈瘤など末梢血管手術	68件
ステントグラフト内挿術	83件
総 数	292件



阪口 修平（医局長）

宮崎で育ち、医師になった後、福岡で3年間、さらにフランスで1年間の研鑽を積み、現在は当科で診療・教育に携わっています。外の環境で学んだからこそ、基礎を大切にしながら一人ひとりの成長に寄り添う指導を心がけています。安心して挑戦できる環境づくりを大切にしています。

責任者からのメッセージ



呼吸器外科
科長 前田 亮

宮崎大学呼吸器外科では、完全鏡視下手術、ロボット支援下手術を早くから取り入れ、全国トップレベルの医療を提供し続けるべく、日々奮闘しております。外科医としての貴重な経験を積むことが可能である一方、緊急手術に忙殺されることは稀ですので、日々進歩する医学の新しい知見を勉強する時間的余裕もあり、患者さん一人ひとりの治療にしっかり向き合うこともできます。肺や縦隔疾患に少しでも興味をお持ちの方は、是非お待ちしております。

領域の紹介

当呼吸器外科では、原発性肺がん、他臓器からの転移性肺腫瘍などの胸部腫瘍性疾患、縦隔の各種疾患、気胸や悪性胸膜中皮腫などの胸膜疾患、胸部の感染性・炎症性疾患(肺結核、非定型抗酸菌症、膿胸など)、胸壁疾患(胸壁腫瘍や漏斗胸)などの外科治療を行っております。近年の手術では、内視鏡を使用し

教育達成目標

- 患者やその家族と十分にコミュニケーションを図り、信頼関係を築く。
- 各疾患(肺癌、自然気胸、慢性肺気腫、炎症性肺疾患、縦隔腫瘍)の病態を理解し、指導医とともに治療計画(手術適応の検討)を立てる。
- 胸腔ドレナージの目的と意義を理解し、その手技を経験する。
- 開胸・閉胸手技を経験する。
- 頻度の高い周術期合併症について認識し、その対策について学習する。
- 肺理学療法の目的と原理について学習する。



2025年全身麻酔手術件数と内訳

症 例	実績数
肺悪性腫瘍	196
縦隔腫瘍	14
良性腫瘍、炎症性肺疾患	25
気胸	13
膿胸	19
外傷	10
その他	28
合計	305



て侵襲の少ない小さな手術創で行う胸腔鏡下の手術(VATS)を各種呼吸器疾患に広く応用しています。また令和2年1月より、原発性肺癌に対するロボット支援手術を開始し、質を落とすことなくさらなる低侵襲治療を行っています。

週間行事

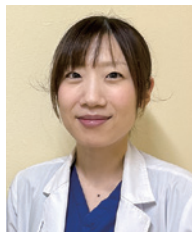
月曜日・金曜日は外来日、火曜日・木曜日は終日手術です。検査、カンファレンスは水曜日に行い、また内科、放射線科、病理との合同カンファレンスも行っております。

取得できる専門医及び技能

- 外科専門医(卒後6年)
- 卒後8年で呼吸器外科専門医

呼吸器外科では若い外科医に積極的に肺癌を始めとした手術の執刀をしていただいています。

先輩からのメッセージ



猪俣 麻佑

私自身、学生や研修医時代は見るとの全てが新鮮で、なかなか志望科を決めきれずにいましたが、その中でも手術の面白さに触れ、さらに患者様の体内から自分たちの手で病気を取り除くことができることに醍醐味を感じて呼吸器外科医になることを決めました。温かく、熱心な先生方からご指導いただきながら、呼吸器外科医として必要な症例経験はもちろん、各科の周術期管理やそれに付随する手技を取得することができ、充実した毎日を送ることができています。呼吸器外科は強い結束力も魅力の一つですので、ぜひ一度見学に来て、その雰囲気をご近感に感じていただければと思います。

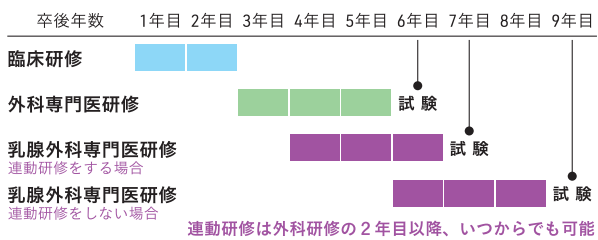
乳腺外科

宮崎乳腺外科 MIRAY1

取得できる専門医及び技能

外科医局に入局後、外科専門医の取得を目指します。入局後は、心臓血管、呼吸器・乳腺、消化管・内分泌・小児、肝胆膵の4分野を2〜3か月ごとに1年間ローテーションし、症例経験を積むことで、外科専門医の取得が可能です(外科専攻医として3年間の研修が必要です)。2022年より、日本専門医機構において乳腺外科はサブスペシャリティ領域として認定されており、乳腺外科専門医の取得も可能です。外科専攻医1年目終了後から乳腺外科専門医研修カリキュラムに沿った研修を開始でき、3〜5年間の修練を経て、最短で卒後6年目に外科専門医、7年目に乳腺外科専門医の取得が可能です。研修は、県立宮崎病院やさがら病院宮崎をはじめとする関連施設と連携して実施しており、今後は宮崎市外の医療機関との連携も拡充予定です。また、マンモグラフィー読影医やがん治療認定医の取得についてもサポート体制を整えています。さらに、結婚や子育てなどライフイベントと両立しながら乳がん診療に継続して関わることも可能です。

専門医研修のフローチャート



主要症例名と実績数

2025年度は79例の乳癌手術を行いました。大学ではリスクが高い症例や高齢者が多い関係で乳房切除術が多くなっています。また、リンパ浮腫のリスクの少ないセンチネルリンパ節生検(色素とRIとの併用)を多くの症例(52例)で行っています。また、乳房の整容性を保つために、乳房温存部分切除術(放射線照射を要します)や形成外科と合同で乳房同時再建(5例)を行っています。加えて、昨年は延べ600例以上の外来化学療法を行いました。

2025年の手術実績数	
症 例	実績数
【乳腺悪性腫瘍手術 79例】	
乳房温存部分切除+センチネルリンパ節生検	15
乳房温存部分切除+腋窩廓清	0
乳房切除+センチネルリンパ節生検	45
乳房同時再建	1
乳房切除+腋窩廓清	15
その他の乳腺悪性腫瘍手術	3
乳腺腫瘍摘出等	6
その他(リンパ節生検等)	4
RRM(リスク軽減乳房切除術)	1
合計90例	

先輩からのメッセージ 古島 理紗子

乳腺外科は、「手術・診断・薬物療法」すべてに関わりながら、患者さんと長く向き合えるやりがいの大きい分野です。当科では、外科専攻医として幅広い外科研修を行いながら、早期から乳腺診療に主体的に関わることができます。また、県内の乳腺外科医が一体となって若手教育に力を入れており、関連施設と連携し豊富な症例を経験できる環境が整っております。ライフイベントと両立しながら長く続けやすいのも乳腺外科の魅力です。少しでも興味があれば、ぜひ一度見学に来てください。実際の現場で、その魅力を感じてもらえたら嬉しいです。



責任者からのメッセージ

乳癌は女性の悪性腫瘍の中で最も頻度が高く、しかも比較的若年の働き盛りの世代に多い疾患です。しかしながら、宮崎県では乳腺外科医が少ないのが現状です(乳腺専門医の人数は全国で43位)。乳腺外科は比較的新しい分野であり、外科と乳腺腫瘍の診療のハイブリットにより早期乳癌の根治や進行・再発乳癌の治療、ケアを科学的に行っています。またMIRAY1というのは日本乳癌学会の中の全国の若手の会員で構成されるグループ「Multi Institutional bReast cAnceRYoung team No.1」になります。若手医師の施設、専門科を超えた横断的なネットワークの形成。多彩化するキャリアパス支援。学生や研修医のリクルート・教育を目的としています。今回はそれに肖りキャッチコピーとしました。興味のある方は是非当科に連絡、参加ください。

領域の紹介

当科では、画像診断(マンモグラフィやUS)、針生検などの基本的な乳腺診療から手術、化学療法まで全てを行っています(がんゲノム医療や妊孕性の問題も扱っています)。乳癌の薬物療法も行っていますが、薬剤の進歩により最近では著効例も多い状況です(CDK4/6阻害剤や新規抗HER2薬など)。常勤の乳腺専門医・指導医1名に加え、外科専攻医(乳腺外科専門医・研修カリキュラム)1名、非常勤の乳腺専門医1名で外来診療、手術に携わっています。昨年は外科専門医取得を目指している後期研修医のローテーターにも術者として参加するように指導しています。研究面では臨床医の視点から問題点を見だし、分子レベルでのメカニズムを解き明かすことを目標にしております。現在、HER2陰性乳癌の術前化学療法後の追加治療に関する最近の診療や発熱性好中球減少症の予防的なメカニズムに迫っていく研究や新規抗HER2薬による薬剤性心不全に関する研究に取り組んでいます。

Clinical Experience With Preventing Chemotherapy-Induced Neutropenia in Breast Cancer Patients With Different Timings of Pegylated Granulocyte Colony-Stimulating Factor(PEG-G-CSF) Injection: A Case Series) Y.Tominaga, K.Furukawa; Cureus (17)8 e91258, 2025

教育達成目標

乳腺外科での外来診療(画像診断、針生検、化学療法等)や手術に加えて、学会発表や論文作成(乳腺外科専門医取得にはファーストオーサーで1報必要)を行い、外科専門医、乳腺外科専門医を取得するのが先ずは目標と考えています。これらには日々の診療を1つずつクリアしていくことが大切だと考えています。

指導医からのメッセージ

女性で最も多い乳癌に対して様々な面から取り組んでいます。昨年度は施設基準をクリアして宮崎県で初めてのリスク軽減乳房切除術を行いました。また、昨年から入局後、1年目で全ての外科の領域を網羅していき、2年目からは乳腺外科を主体として研修できるシステムに変更しています。今後は地域枠の医師にも対応できるように宮崎市・東諸県郡以外でも乳腺外科を学べる施設を増やすことを検討中です。皆で宮崎の乳腺外科診療を担っていきましょう。

小児外科

こどもを助け、成長に寄り添う小児外科医を育成します！

責任者からのメッセージ

小児外科専門医とは子どもを安心して預けることができる外科医です。単に手術や解剖学的な知識の蓄積だけでなく、小児の成長を考え合わせた特性や小児の外科疾患の特徴についての十分な知識と経験が必要になります。小児外科専門医となるには日本外科学会・日本専門医機構において外科専門医を取得した後にサブスペシャリティである小児外科専門医を取得することになります。宮崎大学外科学講座では卒後研修期間中は外科専門医所得のため一般の外科の知識、技術の習得を考慮した指導を行い、外科専門医から小児外科専門医取得へとつなげる一貫した育成プログラムを行っています。これからの外科医療を支えていくためには若き医師の力が必要であり、その育成に力を入れています。

領域の紹介

小児外科は鼠径ヘルニアや停留精巣などの一般的な小児外科疾患から先天性の新生児・乳児疾患(鎖肛や食道閉鎖、Hirschsprung病など)や急性虫垂炎や腸重積などの救急疾患、小児期より若年期・成人期へ診療が継続している重症心身障害児への外科的介入、小児がんに至るまで幅広い疾患を対象として診療を行っています。頸部から肛門に至るまで、呼吸器、消化器、生殖器、軟部組織と幅広い臓器を対象とすることも大きな魅力の一つです。また成人外科はがん診療を中心とするのに対し、小児外科は機能を回復する手術を中心とします。機能的な予後を長期にわたりフォローし、診療に携わったこどもの成長をご家族と一緒に実感することができます。この楽しみは小児外科に特有のものです。<http://www.jsps.or.jp/disease-to-treat> (日本小児外科学会：小児外科で治療する病気)

取得できる専門医及び技能

卒後7年で小児外科専門医の取得が可能です。小児外科専門医になるには日本小児外科学会が認定した施設で研修する必要があります。

- 外科専門医
- 外科指導医
- 小児外科専門医
- 小児外科指導医
- 小児がん認定外科医
- 新生児認定外科医
- 日本内視鏡外科学会技術認定医など

主要症例名と実績数

宮崎大学病院において年間100例前後の特に新生児疾患、小児がん、重症心身障害児に対する外科治療および内視鏡手術を行っています。また県立宮崎病院小児外科や鹿児島大学小児外科とも連携し、宮崎県の小児外科医療を支えています。

2025年の手術実績数	
症 例	実績数
鼠径ヘルニア手術	27 (うち腹腔鏡手術16例)
腹腔鏡下または開腹による噴門形成術・胃瘻造設術	11
停留精巣固定術	10
植込型中心静脈カテーテル留置	10
臍ヘルニア根治術	2
鎖肛(高位及び低位)根治術	2
先天性胆道拡張症手術	3
小児固形腫瘍手術(生検含む)	7
腸閉鎖症手術	1
横隔膜ヘルニア根治術	1
腹腔鏡下虫垂切除術	2
総計98件	
うち新生児症例4件(4%)、腹腔鏡・胸腔鏡下手術33件(34%)、緊急手術6件(6%)	



教育達成目標

まれな疾患が多い小児外科疾患の診断・治療を適切に行えるようになることを目標とします。最新の医療を学び、医学研究に対する興味を持てるように、積極的に学会発表を行ってもらいます。

- 小児外科的疾患の診断に必要な問診と身体診察を適切に行うことができる。
- 小児外科疾患の診断計画をたてることができる。
- 小児外科疾患の診断に必要な基本的検査法の実施及び一部の特殊検査の選択と結果の解釈ができる。
- 小児外科における基本的治療・手術法を適切に選択し、確実に実施することができる。
- 小児外科疾患の患者とその関係者に、病状と診療に関し十分な説明を行なうことができる。

週間行事・研修に関する行事

時間	月	火	水	木	金	土
朝	消化管・内分泌・小児外科カンファレンス	肝胆膵カンファレンス	消化管・内分泌・小児外科カンファレンス	休日	外科学講座全体カンファレンス	
午前	病棟業務	外来	外来検査病棟業務	回診病棟業務	手術	外来病棟業務
午後	病棟業務	病棟業務	周産期合同カンファレンス		手術	

指導医からのメッセージ

小児外科診療科長・総合周産期母子医療センター講師 中目 和彦

小児人口の減少、外科医の減少に伴い、小児外科医も減少しています。しかし手術を必要とする小児や赤ちゃんがいなくなることはありません。小児外科専門医は小児に対するgeneral surgeonであり、小児に対して広く深い知識・スキルが要求されます。人生100年の時代を見据えて小児の将来をサポートしていくことはやりがいのある仕事だと思います。外科・小児外科に興味がある方は、気軽にご連絡ください。